

スマートシティの実現に向けた技術提案書

様式1

提出年月日: 令和2年4月22日

提案団体名: Lendlease Japan, Inc

○提案内容

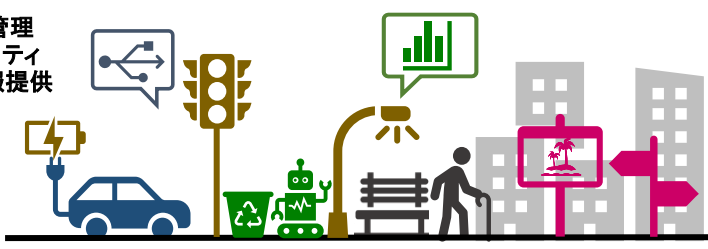
技術の概要・実績等	技術の分野
<p>(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください</p> <p>スマートシティ実現に資する技術と実績 (ユーザーかつインテグレーターの立場にて)</p> <p>Lendlease(レンドリース)はオーストラリアに本社を置き、ヨーロッパ、アメリカ、アジアでも事業を展開する不動産・建設企業です。デベロッパーとしては主に大規模な複合型の都市開発を手掛けており、最近の殆どの自社開発案件において下記のようなスマート要素をすでに導入済あるいは実証実験中です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通モニタリング、スマートパーキング、EV急速充電スタンド</li> <li>・ 自動運転モビリティ</li> <li>・ デジタル・ボード(広告・広報)、スマート案内</li> <li>・ 気象・環境モニタリング</li> <li>・ スマート照明、スマートユーティリティ(電気・ガス・水道等)</li> <li>・ 廃棄物モニタリング、清掃ロボット</li> </ul> <div data-bbox="177 898 1318 1308"> <p>Traffic &amp; Mobility      Environment &amp; Energy      Smart Management</p> <p>リタイアメントヴィレッジ内を走行する自動運転車      街灯センサーによるエネルギー・環境モニタリング      ビル管理オープンデータプラットフォーム</p> </div> <p>また、弊社日本法人は建設部、テレコム部がプロジェクトマネジメントの先駆者として公共・不動産オーナー・通信事業者向けのサービスを提供するほか、投資開発部もデベロッパーとして開発事業を計画しているところです。これら複数の部門が連携しながら海外で培ったスマートシティ・ソリューションを総合的に活用することでスマートシティ開発のインテグレーターとしての役割を担っていく計画です。さらに移動体通信事業者に対し、屋内外の携帯基地局インフラを弊社設備として共用化する事業を進めており、通信インフラも含めたスマートシティソリューションを計画しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携帯基地局のインフラ共用化(屋外・屋内)</li> </ul>	<p>(2)-(7)</p> <p>(1)</p>

(2)(1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ  
 ※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください

解決する課題のイメージ	課題の分類
-------------	-------

(1)の技術に対応するソリューションはそれぞれ下記のとおりです。

- 交通安全、渋滞回避、駐車スポット管理
- 高齢者運転対策を含む安全なモビリティ
- セグメントされた広告、効果的な情報提供
- 気象情報のビジネス活用
- 環境の維持・改善
- 省エネルギー、カーボンニュートラル
- 環境整備、廃棄物の効率的処理

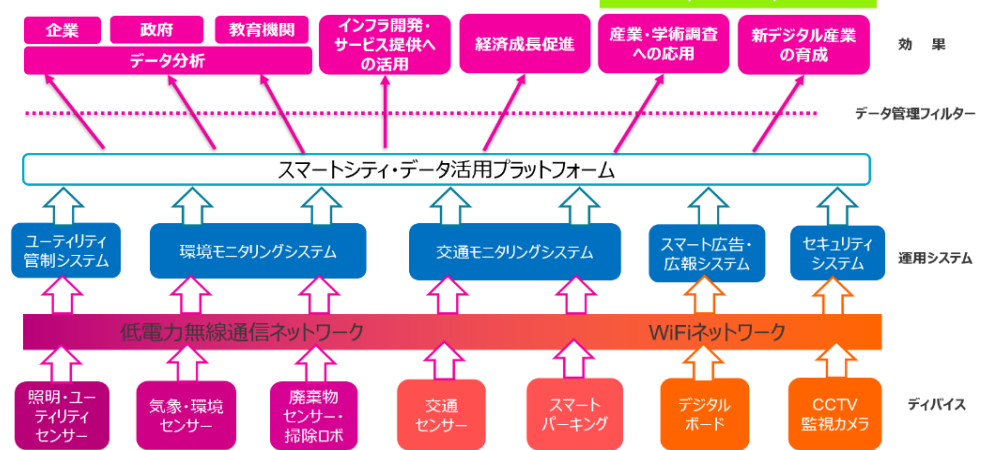


- 携帯基地局のインフラ共有化(屋外・屋内)  
 →各通信事業者それぞれが5G基地局を整備することに比べ効率的な整備・運営、そして景観の維持にも貢献できます。

これらソリューションの実現とともに、蓄積される膨大なデータを活用するプラットフォームの形成を促し、各機関でのデータ分析、新産業の育成、そして経済成長などへの貢献へと繋がるのが期待されます。

(ア)  
 (ア)  
 (キ)  
 (ウ)(キ)  
 (ク)  
 (イ)(ク)  
 (ク)  
  
 (シ)

### スマートシティ・データの活用



### (3)その他

#### 日本発スマートシティ技術の海外展開を支援

弊社がオーストラリア、イギリス、イタリア、アメリカ、シンガポール、マレーシアにて現在建設中あるいは着工予定の案件にて協業可能性のある日本の先端的なスマートシティ技術についての調査・検討も実施しております。

たとえば、マレーシア・クアラルンプール中心部における再開発事業 The Exchange TRX (MRT駅直結の商業施設・オフィス・ホテル・住宅・都市公園の複合施設)建設が2025年の完成を目指して進んでいます。多くのスマート要素導入が検討されています。

また、弊社の関与は一部ですが、オーストラリア・シドニー郊外では2026年開港予定のシドニー第2国際空港の建設が始まり、空港周辺ではエアロロポリス(空港先端都市)として、航空宇宙防衛、アグリビジネス、ヘルスケア産業等の企業、研究機関などの集積を目指した開発も計画、エアロロポリスを含む西シドニー広域新都心が世界有数のイノベーション地区へと変貌を遂げようとしています。

両プロジェクトともにすでに多くの日本企業が投資および進出を表明しており、弊社との協業の有無にかかわらず、日本のスマートシティ技術を世界に紹介するショーケースとなるのが期待できます。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

#### 〇部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
建設部	柏原 傑	03-5414-1870 / 080-9441-0455	<a href="mailto:suguru.kashiwabara@lendlease.com">suguru.kashiwabara@lendlease.com</a>